

ケア

～癒し、癒されるビジネス～

「ケア」とは

「Cure」から「Care」へ。福祉介護分野ではケアは基本行為ですが、医療界でも治療という行為からケアという行為が患者の生活支援という視点から重要視されています。ケアを身体だけでなく、精神のケアまで広げれば「メンタルケア」の分野があります。動物のケアまで拡張すればペットビジネス、植物であればガーデニングがあります。さらに、モノのケアまで拡大すれば、各種メンテナンス事業が浮かび上がってくる広い範疇のコンセプトです。ケアの特長は、ケアする側が癒す行為を施すのですが、実は、ケアする側が癒されるまでに深化し「癒し癒される」双方向の関係性が生まれることです。

コンセプトの背景

医療技術の対象とならない心や生活のケア

- ・人間を臓器という部品で構成されている生物と捉えるところからはじまった医療技術の発展により、多くの人命が救われたが、医療技術の対象としてこなかった患者の心の問題や生活支援の問題が看護分野で注目されている。
- ・治療を目的とする医療と生活支援を目的とする介護では、まったく違うサービス概念を持っている。

ストックできない「ケア」というサービス

- ・すべてがモノ化する中で人間の本能は萎えており、癒しが求められてる。
- ・市場経済が浸透している現代は、あらゆるサービスをストックし、再現性の高い商売のネタにする働きを強めているが、ケアはストックできない。

社会保証制度の充実と財政破綻

- ・福祉国家をうたうほとんどの国は経済破綻を起こしている。
- ・支出が急増する介護保険や障害者福祉の支援費は、国家財政の圧迫のもとで、予算削減の制度変更を余儀なくされる方向である。

関連キーワード

癒し

個別精神の癒しに加え、人とのつながりを求める癒しと、つながりを断ち切ることを求める癒しがある。

バリアフリー

段差のバリアや視覚のバリアだけでなく、温度差のバリア、心のバリアなど目に見えないバリアがある。

ユニバーサルデザイン

高齢者や障害者など不利な生活を余儀なくされる人などあらゆる人が製品、建物、環境を利用できるようにはじめから考えてデザインするという概念。

市民福祉

福祉国家でなく、市民が福祉に参加し、支え合う社会を目指す。援助や養護を国に求めず、市民の自助で人と社会を活かす福祉の営み。

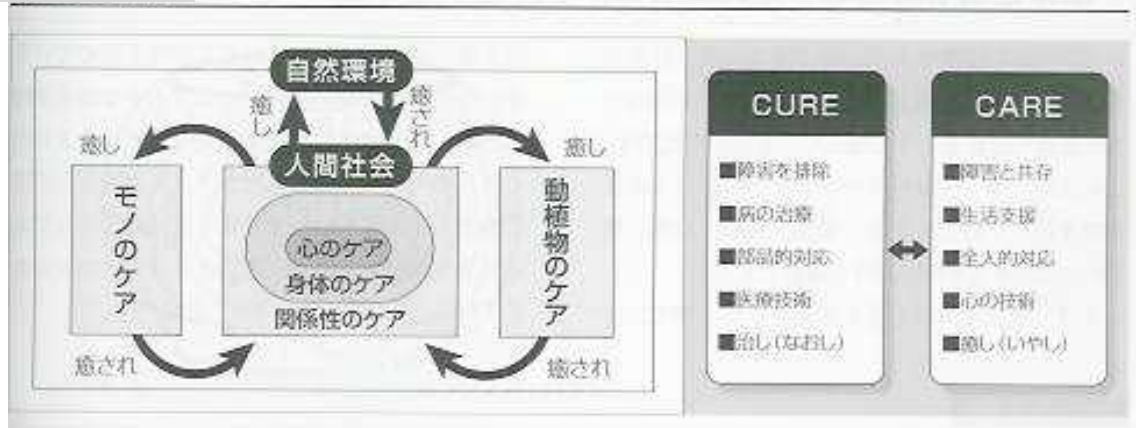
ノーマライゼーション

障害者であろうと健常者であろうと、同じ条件で生活を送ることができる成熟した社会に改善していこうという営み。

ホリスティック医療

患者の自然治癒力を引き出すため、治療に患者が積極的に参加し 医者は支援者であるとする医学思想。

コンセプトの構造



C・Bへの活用例

-「**障害者による会社経営**」
北海道浦河の精神障害者施設「べてる」や鹿児島県川辺町の「萌」では、障害者が中心となって手づくり品やお土産の販売、店舗清掃、リサイクルショップ、福祉ショップなど地域の困りごとを事業のネタに会社経営を行っています。
-「**障害者コミュニティによる里山の保全**」
障害者の生活支援として働く場を確保するための農場をつくり、地域との交流を促すためレストランを併設し、親の余暇をつくるため学習会やイベントが開催された結果、地域の市民と共に里山を保全する活動が生まれました。
-「**園芸療法・動物療法**」
人は自然と接することで自然治癒力が働き、元気になります。リハビリと経済活動を両立させているのが園芸療法や動物療法です。作業や自然とのふれあいを通じて社会的弱者を核とした新たなコミュニティが形成されます。
-「**理・美容の出張サービス**」
ケアといえば不自由な身体を介助することだけをイメージしがちですが、美しくあろうとする心をアシストする理・美容も人の尊厳を守る重要なケアです。高齢者や障害者の施設まで出張して心身を美しく保つ出前サービスがあります。

事業自立のポイント

ボランティアの活用とケア

サービスがストックできないのがケアで、行き届いたケアを施そうとすると人手がかかるものです。この部分を解決するのがボランティアの活用で、彼らに気持ちよく働いてもらうためのマネジメント力が問われるのがケアビジネスです。ボランティアのケアができてはじめて利用者のケアが可能となります。

保険制度の光と影

国の保険制度に守られて、コミュニティ・ビジネスの中で最も安定して多くの予算を確保できるのが高齢者・障害者の生活支援事業といってもいいでしょう。しかし、保険制度の当てはまらない分野にどう対応するかが、顧客満足、地域満足につながるコミュニティ・ビジネスらしさなのです。

地域での役立ち分野

弱さを絆に「癒し癒される」関係づくり

地域の問題は、社会的弱者に最もその負担がかかると同時に、社会変革も弱い部分が起点となって広がるものです。弱さを絆にした「癒し癒される」関係が地域の中に発生し、多くの支援者や協力者の力が結集し、社会が動くのです。

「養護福祉」から「活人福祉」へ

国から養われ守られる「養護福祉」を脱し、援助から自助へ、福祉国家から市民福祉へ移行し、人が活かされる「活人福祉」への道を拓かなければなりません。コミュニティ・ビジネスとしてのケアビジネスの役割は大きいはずですが。